

毎日新聞掲載オピニオン論文について

平成27年6月5日付の貴紙のオピニオン執筆の熊谷豪氏の記事を拝見しその感想を述べておきます。

記事は賛成派も反対派も今回の住民投票のメリット・デメリットを分かり易く説明できていなかった、住民への丁寧な説明を心がけてほしかったと述べられており、それはそれで正しい評価であると考えます。しかし行政の枠組みに理想の姿はないとも言われているように、あるべき行政の形をすんなり説明し実行できることはないのです。橋下氏の行政に対する従来からのあり方の中にこそ市民が判断する材料があったはずです。

しかしその点について記事では都構想の目的は府に一本化し特別区で住民サービスを充実させることだ、橋下氏は住民の声を聞いて丁寧に行政をやる時代だと言っている、区で使える財源減少は推論にすぎないとか、橋下氏は本来取り組みたかった住民サービスの向上について具体的説明を欠いたことが失敗の原因だと判断している。即ち説明さえできれば賛成されるはずであったと述べているのである。しかしこれらは明らかに間違いです。橋下氏をひいきにしてきた自己の気持ちが思わず吐露しているものであろう。

市民は橋下氏の具体的行政を7～8年にわたって見てきたのです。その中で橋下氏は強者の論理で突っ走り、弱者や文化を考慮しない人物で、こんな人間に明日を託せないと判断したので、橋下支持の濃いマスコミ風にもめげず市民が橋下氏にノーを突きつけたのです。

橋下氏は「私が民意だとか、文句があれば首長になってから言え、市民は都構想について知る必要はない、職員は都構想について外部にしゃべるな等と独裁者的発想の持ち主でした。道頓堀にプールを、御堂筋を公園にする、八尾飛行場にオスプレイをもって来る、慰安婦は戦時下では必要という発言、憲法違反の思想調査、君が代強制、入墨調査、校長や教育長に素人友人を採用して失敗に連なっている。赤バス廃止や児童文学館の一方的廃止など文化行政への圧迫の失敗も大きい。それを説明の不足と置き換えることは不当である。彼は本当は市民の為の行政サービスなど考えてもいない、自分の権力欲の充足の為にやっているにすぎない。

このような過去の橋下氏の具体的失敗を判断材料として重視することは当然である。このような彼の明らかな行政責任についてマスコミは賛否の材料に何らしようとする姿勢を示さなかった。同封する毎日新聞の意見広告案もこれらのことを物語っている。意見広告について新聞社は漫画部分の字や絵を抹消しないなら掲載を拒否すると言ってきたので

ある。我々は掲載してもらう為に漫画部分は全面削除せざるを得なかった。今回の投票はあまりの橋下氏の反市民的態度に怒った市民が団結し、小さな市民グループが身の周りの人に説明し路地裏まで説得にゆき、市民が大同団結ができたことで幸運にも僅差で勝利したのである。私は市民運動のかつてない高まりが勝利の原因と考えており自信を持った市民の今後に大いに期待を抱いています。これからは大差で市民の為の制度を勝ち取ることを願っています。

政治家が住民への説明を丁寧にすべきはもちろんであるが、マスコミも市民が関心を持っていることについての賛否の材料としてとりあげるべきであったと考えます。

なお、私は高度に発達した今の社会でとびはねた改革はできないし、そんな手法はかえって事態を悪化させる。市民の意向を尊重し、1つずつ改革してゆく以外ないと考えています。

以上一方的な事も述べましたがその部分はお許し下さい。私は住民訴訟や情報公開裁判などを市民の立場で弁護士を50年近くしてきた弁護士で満74才になります。余生も短時間で少しは市民の為に行動して行こうと思っていますがなかなかむつかしいことと感じています。マスコミの方からいろいろ教えていただいて前向きな最終章を送ってゆければと思っていますので宜しくお願いします。

H27. 6. 10

〒530-0047

大阪市北区西天満6-7-4

大阪弁護士ビル606号

弁護士 辻 公 雄

〒530-8251

大阪市北区梅田3-4-5

毎日新聞社会部（オピニオン記事担当者一同） 御中